

第41回全国学童保育研究集会報告

◆三多摩おおいに目立つ！

10月28日、29日の両日、愛知県で開催された第41回全国研究集会には、当日集計で4377名の参加がありました。三多摩からは77名の参加となっています。(最終集計にはしばらく時間がかかりますが、次回の三多摩運営委員会には公表できると思われます。)なお、三多摩からの参加者のうち4名は分科会の世話人を、2名はレポーターを務め、研究集会の成功に貢献しました。

来年の東京開催に向け、三多摩連協では今回初めてバスツアーを企画しました。また、幟旗とジャンパーを作成し、持参しました。白地に赤い玉3つ(で、「さんたま」というシャレです)のデザインは、手前味噌かもしれませんが他を圧倒して目立ち、「そのジャンパーを私も欲しい」という他の地域の方々もいました。(事務局長古谷

で、感想。いやー楽しかったのひとこと。バスもどこの県より豪華で、行きも帰りも大いに交流が出来、すてきなバスツアーになりました。心配していた帰りの時間も渋滞がなく、11時過ぎには帰宅ができました。再来年も企画したいですね。

◆1日目 全体会

さて1日目。ほぼ満員の愛知県体育館で、まずは愛知の学童っこによる歓迎行事。3000人による呼びかけや歌、感動しました。

続いて、山本全国学童保育連絡協議会会長による基調報告。「放課後子どもプラン」による「一体化」をゆるさず、いまこそ保護者と指導員が力を合わせて学童保育を充実させましようとの力強い表明がありました。保護者、指導員による特別報告の後、横湯園子さん(中央大教授、臨床心理士)による記念講演がありました。

静かな語り口から、いま一番の問題であるいじめについて丁寧にお話してくださいました。改めて子どもの居場所としての学童クラブのあり方を考えさせられました。



バスツアーの面々 この人数で40名定員のバスを貸切！

◆三多摩連協初のバスツアー！

今年の特徴はなんといっても三多摩連協初のバスツアーを企画したことです。来年度の視察も兼ねていたので、なるべく多くの人に参加してもらうために安価なツアーを企画しました。通常なら新幹線などの交通費が25000円程度、宿泊が9000円、計34000円ほどかかるところをバスツアーでは宿泊こみでなんと20000円！ほんとに助かりました。



◆全国交流会と三多摩交流会

全体会終了後、場所を移して全国交流会が行われました。今年は大学の生協食堂で行われ、例年になく料理もお酒も充実していました。各地からのアピールがありました。一番目立っていたのは、トリをとった三多摩連協。林会長が組長としてデビューしました。(林さんは長年三多摩連協に関わっておられ、「組長」のあだ名で親しまれています)役員はそろいのジャンパーを着、とっても目立つ幟旗(林組のロゴ入り)を掲げたアピールに場内拍手喝采でした。その中でも一番目立っていたのは西東京の指導員。大けん玉にジャクリングを披露してくれました。

◆三多摩交流会

全国交流会の後、恒例の三多摩交流会がありました。三多摩の交流会は毎年他県からも参加があるというオープンな交流会なのですが、今年は山形と鹿児島
の指導員さんが参加してくれました。また全国連協の職員の方全員、前会長の片山さんも参加していただき、夜遅くまで大いに盛り上がりました。三多摩の面々はホテルに帰ってからも「これからの三多摩連協をどうやって盛り上げていくか」を真剣に話し合っていました。(よく覚えていないのですが・・・)



鹿児島から参加の指導員さんたち

◆2日目 分科会

2日目は場所を日本福祉大に移して分科会が行われました。名古屋から大学までは電車でも1時間ほどかかりますが、これも貸切バスで楽チン。前日の交流会疲れか、ほとんどの人がぐっすりお休みでした。今年は50の分科会があり、どれに行こうか迷いながらそれぞれ思い思いの分科会に参加しました。

お昼も幟旗の元、みんなで楽しい昼食となりました。

◆来年はいよいよ東京！全体会は国技館

来年はいよいよ東京です。国技館で会いましょうと

アピールしてきました。皆さんもぜひ参加してください。

(事務局次長 菊池)



◆参加者からの感想—全国研究集会に参加して

全国研、諸般の事情で新幹線で”女3人大人の旅”になりました。(熟女の旅・・・とつけたかったのですが、言うにはまだ早い年齢です)

行きは国分寺駅9時集合、帰りは22時頃帰宅、という母には比較的優しい旅になりました。

バスツアー、すごく惹かれましたが参加出来ずに残念でした。わがまま言ってほんのちょっと乗せて頂きましたが、ほんとにすごーいバスでした！三多摩ってお金持ち！と思いました。

さて、分科会の感想との事ですが、私が参加した第10分科会『子どもにやさしい学童保育の施設を一実態と改善の課題—』の中で、発言者の滋賀県野州市の保護者より、児童クラブの設置運営基準を頂きました。10月1日に出来たばかりだそうです。

野州市は最近町村合併で出来た市で、その際に保護者の熱い思いがあり、それならば、ということで、運営基準策定まで至ったそうです。

全国連協にもまだ資料が届いていないとのことでしたので、その場で世話人の方より資料の提出依頼をされました。野州市の了解を得ているとのこと、その場でコピーして頂き、もらって帰ってきました。

(東村山 岡部さん)

